

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2691800078		
法人名	株式会社 ミストラルサービス		
事業所名	ミストラルとよさと (1Fユニット)		
所在地	京都府綾部市栗町土居ノ内31		
自己評価作成日	平成25年2月27日	評価結果市町村受理日	平成25年5月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル梅湊町83-1 「ひと・まち交流館 京都」1F		
訪問調査日	平成25年3月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

笑顔があふれる施設作り(そこで生活される入居者の方やご家族様、そこで働くスタッフも笑顔で過ごせる雰囲気をつくる)と地域とのつながりを大切にしている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

株式会社 ミストラルサービスは平成10年ホームヘルパー派遣事業を初めとして、ヘルパー養成・訪問・通所事業等を展開し、平成24年4月、認知症対応型としてグループホーム・認知症デイを開設し地域に密着した施設として活躍しています。「ミストラル」とは地中海沿岸に吹く寒冷な北風を指し、「春を呼ぶ風」とも言われ、春風に乘せてあちこちに介護の花を咲かせたい思いを込めて名づけられています。事業所の理念「一人ひとりを大切に『わ』のある……」の『わ』とは、和(なごみ)と輪(人のつながり)と笑(笑顔)を共に重ねてリンクさせたいとの深い思いを持って作成しています。地元豊里の人達と一緒に、認知症になっても住み馴れた地域で暮らし続けることを目標に、安全で安心な生活の支援を目指している事業所です。淡いイエロー(希望の色)の3階建の「ミストラルとよさと」は周辺の緑に映えて良くマッチングしています。目の前には小学校のプールや保育園があり、子ども達のはしゃぐ声や元気な姿が見られて恵まれた環境にあります。家族や地元の人達も気軽に立ち寄れる雰囲気が作られています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念「ひとりひとりを大切に“わ”のある暮らしを」が実現できるように日々努めている、事務所に貼りだし、意識をもちながら日々の業務に取り組んでいる	ミストラルサービスの経営理念に沿った事業所の理念の「わ」は共同生活の場でありながらも個性を尊重し、和(なごみ)と輪(人のつながり)と笑(笑顔)の3つの「わ」のある生活を支援したいと職員の発案で決めているので、全職員が充分理解してケアの実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	3年前より地域の公民館活動に事業所として参加しており、積極的に交流を図っている。具体的には地域の盆踊りや文化祭への参加、小学校行事も声をかけてもらい参加している	小学校移転跡地利用の事業所は、小学校や保育園がすぐ傍にありお互いに交流している。町内会に入り回覧版で地域の情報を得て「盆踊り」や「運動会」等の参加では、場所を設けてもらっている。利用者が保育園に行つて「昔話」をしたり、事業所と地域が相互に協力しあえる関係ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設長及び管理者が認知症キャラバンメイトとして地域へサポーター養成講座に出かけている。時として飛び込みでの介護相談もあり、サービスの紹介や相談に応じている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度開催して地元地域の方や行政関係、民生児童委員、入居者のご家族代表を交え施設での取り組みを報告して貴重な意見を頂きながらサービスの向上や安心の施設作りを活かしている	会議には地区連合自治会長(豊里公民館長)、地元自治副会長、民生児童委員会長、行政(高齢介護課)家族代表、職員等が出席し実施している。運営や利用者の状況、課題、事故、研修等詳細に報告している。出席者からは双方向での地域交流の大切さや感染症予防についても意見があり有益な場となっている	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の委員としての参加はもちろん、事故や事業内容に変化があった際には連絡をとっている、市内の介護サービス事業者連絡会にも所属しており情報の交換も積極的に行っている	市役所の高齢者介護課職員が運営推進会議に出席しており事業所の実情を理解しているので、相談し易い関係ができています。メールで研修会情報を受けたり相談にも行って情報交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	設立1年目においては概ねの理解にとどまっており、社内研修等今後の課題として取り組んでいきたい	「身体拘束をしないケア」について指針を明記し研修を実施して、職員の認識を深め共有を図っている。外に出る利用者にはその思いに寄り添って一緒に同行している。利用者の抑制となる言動については今後研修をして共有を図りたい考えである。	

京都府 グループホーム ミストラルとよさと (1Fユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	設立1年目においては概ねの理解にとどまっており、社内研修等今後の課題として取り組んでいきたい		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	設立1年目においては概ねの理解にとどまっており、社内研修等今後の課題として取り組んでいきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に重要事項説明書及び契約書の内容を十分に説明し、同意を得ている。変更があった際には即座に説明を行い、同意を得る方針		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設玄関に意見箱を設置しているが投函しにくい可能性もあるため、施設からの便りにて意見や要望があれば教えて頂けるよう呼びかけている。外部者については契約時に説明している	会社が家族にアンケートしている。それを集計・分析して定例会で検討し結果を家族にフィードバックしている。そこから利用者の日中の過ごし方(個性を出す・楽しみを見出す)が課題として明確となった。課題解決に早急に取り組みたい考えである。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	主には管理者が現場へ足を運び、その都度確認して施設長へ報告している。また月に1度のスタッフ定例会議においてはスタッフの意見を反映しての現場づくりに努めている(議事録は代表者にも確認している)	職員は自己評価をし、それを踏まえて管理者が個人面談をする際に意見や提案も聞き取っている。また意見はスタッフ定例会議や日常の申し送り時にも聞き取っている。主にケアについての意見が多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者へは管理者より随時職員に関することは報告し必要に応じて話し合いの機会を設けて悩みなど確認している。やりがいや向上心については自己評価シートの活用により努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	初年度においては運営の基礎を作っていたが2年目は職員のレベルアップに力を注いでいく方針、その中でも数回「レベルアップ研修」と題して社内研修は実施している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開設時に他の施設に実習に行ったことをきっかけにその後も交流は継続している、近隣にもグループホームがあり、相互関係を築いている		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より本人やご家族との面会を重ねて、これまでの生活歴や趣味や嗜好など「センター方式」の一部を活用して把握に努めている、在宅サービスを利用されていた場合は担当のケアマネより情報提供をしてもらい在宅での状況も把握している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様にご家族とも自宅での面会に加え、数回は施設にも足を運んでもらい雰囲気を見てもらったり、過ごし方等の要望を確認しながら関係作りを行っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所判定委員会においてニーズの確認やご家族の要望などの検討をして支援の方向性を定めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に時間を過ごしていく中で「ご利用者様から学ばせていただく姿勢」を常に意識して業務にはあたっている、その中で各自信頼関係の形成に努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日曜日や祝日などご家族の面会が多い為、ゆっくり関わって頂き、何か困ったことなどあった場合は気楽に職員に相談してもらえり雰囲気作りに努めている、週末などの外泊も自由にしてもらえる体制にしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の人間関係が途切れないように自由な面会や自由な外泊、時には外出を推奨している、入居者によっては手紙のやりとりもあり、良好な関係が継続している	友人・知人・教え子の訪問が多く、お茶を出して歓迎しゆっくりと話し合ってもらっている。外出時に入居者が寺に立ち寄り家族が安心されたり、クリスチャンが日曜ミサへ行く支援もしている。	

京都府 グループホーム ミストラルとよさと (1Fユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症という病気の特徴から時として利用者同士でのトラブルもあるが職員がタイムリーに間に入り、関係をとりもち、その都度原因など話し合い、関係の修復や今後の関わりについて話し合っている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在においては契約終了者はいないが今後発生しても関係は継続し、相談にも応じていく次第		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前より本人や家族との面会を重ねてこれまでの思いや気持ちを「センター方式」など活用して把握に努めている。ただ入居されてからは本人らしく生活して頂けるように検討等重ねているが、記録に残せていないのが今後の課題である	利用前に作成したアセスメントに加え、来所時に家族から聞き取ったり、日常的に利用者本人の言葉表情・仕草等から汲み取った「思い」「希望」「意向」等を受け止めるよう努めている。今は意思表示できる利用者が殆どであり本人から聞くことが多い。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前からも把握に努め、入居後も本人との会話や生活スタイル、家族との面会の際の様子を伺っている、把握した情報を生かしてきれていないのが現状であり、今後は職員間でのカンファレンスを行い本人の生活に繋げていきたい		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間シートやフローシートなどを利用して暮らしの現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者と職員とで話し合いながら計画作成やモニタリングを行っている、必要に応じてご家族や関係者に聞き取りを行い、その意見を反映している	ケアマネジャーは日常生活状況(言葉・表情・仕草)・家族との会話・医療情報等多くの情報を集めて、担当者と共にモニタリングを行い、評価し課題検討して介護計画を作成している。医師との連携も図られている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録(支援経過)などは記入できるようになってきてはいるが、個人差もあり統一している段階である。朝の申し送りでの報告はしているが全員参加ではない為情報の共有が難しい事が現在の課題である		

京都府 グループホーム ミストラルとよさと (1Fユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	初年度ということもあり、内部での調整にとどまっている、今後は同施設内や地域にある機能と連携をとってニーズに対応していきたい		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事(盆踊りや文化祭、小学校や幼稚園の行事)に参加することにより生活の質は上がっているが本人の心身の力の発揮に繋がっているかは今後の課題である		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの関わりもあり、基本的には本人及びご家族の意向に合った医療機関に受診してもらっている、緊急時の場合や往診を希望される方については協力医療機関と連携をとっている	殆どの利用者がかかりつけ医に受診しており家族が同行支援している。受診時は利用者の状態やバイタル等の情報提供をして、家族からの伝達や医師からも指示をもらっている。家族の事情や緊急時は職員が支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員の中に看護資格を持った者が2名おり、心身の状況に変化があった場合には連絡や相談をかけながら対応している、受診が必要と判断した場合はご家族に連絡をとって医療に繋げている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	基本的には受診はご家族に対応してもらっているが必要に応じて管理者が付き添い、情報交換を行っている、それぞれのかかりつけ医と良好な関係が保たれており、電話での連絡も多い		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合や終末期での対応については説明を行い、納得の上で入居し頂いている、近隣の協力医療機関への協力も依頼しており、できることはしたいと考えている	「重度化対応・看取り介護について」指針を明記し入所契約時に説明しているが、本人や家族はまだ実感として受け止めていないようである。利用者の状況に応じて家族・医療機関・職員等で話し合い利用者や家族の思いに沿った支援をしたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1度は「緊急時の対応」について職員研修を実施して実技や基本的な知識の習得に努めている、急変があった場合にはその後職員間において振り返りを行い、今後に繋げている		

京都府 グループホーム ミストラルとよさと (1Fユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	建物の構造上や入居者の心身機能のレベルから避難方法を検討している段階、年に2回の避難訓練を通じて身につけていきたい	消防署の指導のもと防災訓練・消防用機器の自主点検を3月に実施する。今後の定期的な実施計画もある。備蓄は水やかセットボンベ・ガス等も準備している。事業所は地域の避難所でもあり、AEDを設置して緊急時に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	初任者研修により自尊心や個人の尊重、言葉使いなどマナー面については教育をしている、日々の業務の中においても目線を合わせたり、プライバシーを大切にしよう心がけている	利用者の人格を尊重する方針を明確にして「人生の先輩」「利用者が主役」の意識を常に持って、傷付けない言葉遣いなどに留意している。小さな事でも全体の問題として話し合い解決を図って、職員同志も互いに注意合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	施設側の判断で無理強いをしないように心がけている、認知症の進行に伴い、排泄や入浴、更衣等の対応が難しい場合はカンファレンスで振り返りながら対応を検討している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所理念「ひとりひとりを大切に“わ”のある暮らしを」に沿って毎日の生活を支援している。職員にとっては仕事の場面であるがご利用者様にとっては「生活の場」であることを理解している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には個人に任せている。美容など希望があれば行きつけの店へ出向いたりしてその人らしさをサポートしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けについては概ね役割が決まっており、協力しながら行っている、メニューや形状に関しても好みや身体状況に応じて厨房職員と連携しながら提供している	利用者夫々が出来ることを喜びとして役割分担して食事作りをしている。利用者の嗜好を聞き、豊富な地産食材・人気のお寿司・月初めに赤飯等を工夫して提供している。和尚さん(利用者)は食前食後の挨拶の役割を担当し、最後にテーブルをポンと叩く習慣が笑いを誘い和やかな雰囲気である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	施設の管理栄養士が主には日々の献立を作り、現場にて摂取量などを把握、状況に応じて現場と厨房職員にて話し合いをしている、水分についてはなるべく摂取してもらうよう支援している		

京都府 グループホーム ミストラルとよさと (1Fユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には口腔ケア(ブラッシングやうがい、義歯の洗浄等)を個人ごとに実施、自分で出来る方にはしてもらい、出来ない方や少し支援が必要な方には職員がサポートしている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間通じて排泄状況を記録して習慣や状態の把握に努めている、日中と夜間においてPTイレやおむつ、パッドの使用を分けて、自立を促進しながらおむつを併用している	トイレでの排泄を目標として、チェック表からパターンを把握し声掛けや誘導をしている。ほぼトイレでの排泄が出来ているが、夜間のみ数名オムツで対応している。在宅時に失禁が多かった利用者が最近はなくなり家族に喜ばれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状況については開設当初より重要視している、長期間排便がない場合は看護師による浣腸や適便、水分補給など日々のケアに反映している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には1日おきの入浴としているが希望があれば毎日入って頂いている、時間帯については午後からとしているがスタッフ体制やその日の流れなどから利用者本位と言えない部分もある、また重度の方に対しては機械浴がないため、シャワー浴のみとなるため、楽しんでもらっていない	週3回入浴を基本としているが希望があれば可能な限り対応している。イオン水(水道の元栓に器具を設置)を用いているので入浴剤は使用していないが、季節湯は楽しみにしている。広く清潔でゆっくりとした浴室である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	フロアにソファを多く配置してゆっくり過ごして頂くようにしている、夕食から就寝までは安心して眠れる様に刺激をさげ、自身のタイミングで就寝してもらうよう心がけている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主には管理者と計画作成者(看護師)が主治医やご家族と連携を図りながら管理している、症状に変化があった場合は速やかに主治医に連絡を行い、指示を仰いでいる		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとり一人に合った役割や楽しみを見つけて提案し、しようという気持ちの中からしてもらっている、過去の職業や楽しみもご家族からの聞き取りにより参考にしている		

京都府 グループホーム ミストラルとよさと (1Fユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じて買物や図書館など安全性を確保しながら外出している、ご家族よりの希望にも応じており外泊や外食などもされている	日常的に散歩が出来る環境にあり、周辺の散歩を楽しんでいる。本や写真集に興味があり図書館で借りたり、スーパーでオヤツを選び買う等利用者夫々の楽しみ方で生活している。外泊して家族と外食する利用者もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には自己管理としている、どうしても管理に支援が必要な方にはご家族の同意のもと、事務所にて管理をしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙については自由にやりとりができるようにしており、外部からもよく便りが届いている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの飾りや雰囲気作りを行い、快適に過ごしてもらえるよう清掃なども日々行っている、温度管理にも気を使い空気清浄機や加湿器も使用している	新しい建物は明るく両側に大きい窓があり、田園風景・山並みが広がり心休まる景色が見える。リビングは十分な広さがあり、季節の花を飾り、カレンダーや時計が見やすくレイアウトしてある。特にダンボールを工夫した利用者手作りの3段雛が可愛く印象的であった。裏山の策に毛づくろいをする猿が並び微笑ましく自然を満喫できる環境である	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには数カ所テーブルやソファを配置して自由に行き来してもらっている、また個人の部屋にご利用者様同士が行き来されることもあり、自由な過ごしてもらっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的には家具や寝具、身近な小物は持ち込みとしておりこれまで使用されてきたものが多い、個人によってはご家族の写真を置かれたりしている	居室は白色蛍光灯の間接照明で明るく十分な広さがあり、家族写真や慣れ親しんだ物を飾り落ち着いた雰囲気である。小学校校歌のメモを大切に保管している。殆どの利用者は昼間をリビングで過ごし、夜間のみ居室へ戻っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差のないバリアフリー構造に加え、必要箇所には手すりも設置して安全と自立の促進に配慮している、トイレや居室についても分かりやすく表示して自分で行動できるようにしている		